

務省係官ハ會社員入國問題ニ關シテハ目下日本以外ノ外國トモ同様問題アリ其取扱方ニ付約一ヶ月ノ間商務労働及國務ノ三省ニ於テ協議シタル結果労働省ニ於テ取締緩和方詮議中ナリト内話セリ（一九二四年米國移民法ト會社員入國トノ關係ニ付テハ第十五章參照）

第三節 不正入國者ノ再渡航並ニ其家族ノ呼寄

一、不正入國者ノ再渡航ニ關スル米國政府ノ提議

一九一九年六月「シアトル」ニ再渡航セル田宮正雄ニ對シ同地移民官ニ於テ取調ノ結果數年前脱船入國セルモノナルコト發見セラレタルモ領事ノ在留證明書ニ基キ發給セラレタル正當旅券ヲ所持セル爲結局入國ヲ許可セラレタル事件アリ然ルニ同年八月十四日米國國務省ハ右事件ニ關聯シ今後日本領事ノ在留證明發給ニ際シテハ旅券ノ提出ニヨリ又ハ地方移民官ニ就キテ本人ノ正當入國者タルコトヲ確ムルノ措置ヲ採ラレタキ旨在米出淵代理大使ニ提議セリ（附屬書第八十四號）

二、帝國政府ノ方針

前記米國政府ノ申入ニ對シ日本政府ニ於テハ九月二十五日在米大使ニ對シ次ノ趣旨ニ依リ米國政府ト折衝スヘキ旨回電セリ

(一) 證明書下附ニ當リ領事ニ於テ出願者ノ正當入國者ナリヤ否ヤヲ本人ノ上陸地ヲ管轄スル移民官ニ照會スルハ甚タ煩雜ナルノミナラス取調ニ時日ヲ要シ歸國者ノ不便尠カラサルヘキニヨリ今後再渡航又ハ家族呼寄證明ノ發給ニ當リテハ領事ヲシテ次ノ手續ヲ執ラシムルコトトスヘシ

(イ) 内地官憲ヨリ正當ニ發給セラレタル旅券ヲ米國入國後紛失盜難等ニヨリ喪失セルコトヲ申立ツルモノニ對シテハ領事ハ其旨ヲ記入シタル證明書ヲ與ヘ同時ニ其氏名ヲ外務省ニ報告シ調査ニ便ナラシムルコト

(ロ) 喪失旅券カ在外公館ヨリ發給セラレタルモノナルコトヲ申立ツルモノニ對シテハ當該領事ヨリ直接在外公館ニ照會シ事實ヲ確メタル上證明ヲ下附スルコト

(ハ) 初メヨリ旅券ヲ有セサリシモ移民官ニヨリ正當ニ入國ヲ許可セラレタルモノナルコトヲ申立ツルモノニ對シテハ其ノ實否ヲ領事ヨリ關係移民官ニ照會シタル後證明ヲ下附スルコト

(二) 尤モ右ハ入國後一定年限ヲ經過セサルモノニ對スル手續ニシテ不正入國者ト雖モ (イ) 入國後三年又ハ五年以上ヲ經過シ米國移民法ニヨリ逮捕送還スルヲ得サルニ至リタルモノニシテ既ニ労働者タル域ヲ脱シ又ハ相當事業上ノ基礎ヲ作リタルモノ (ロ) 未タ労働者タル域ヲ脱セサルモ

入國後七年以上ヲ經過シタルモノニ對シテハ例外トスルノ要アリ

- (三) 布哇ハ米本土ト同視シ難ク不正入國者モ事實僅少ナルニ依リ前記ノ手續ハ布哇ニテハ適用セス

然ルニ當時日本人不正入國者ニ對スル批難喧シキ際ナリシヲ以テ在米幣原大使ハ右ノ趣旨ニヨル交渉ヲ爲スハ政策上時期ニアラスト稟申シ之ニ對シ政府ニ於テハ再渡航旅券出願者ノ中本件交渉ノ結果ニヨリ許否ヲ決スヘキ未決案件モアリタルヲ以テ米國政府ノ意嚮ヲ確ムルコトトスヘキ旨再應回訓セシモ幣原大使ハ考究ノ上此際不正入國者ニシテ一定年間米國ニ居住シ既ニ勞働者ノ域ヲ脱シタリト認メラルモノニ對シテノミ再渡航又ハ呼寄ノ道ヲ啓キ其他ニ對シテハ一切之ヲ認メサル方針ニテ米國政府ト交渉ヲ開始スル事ヲ適當トスル旨ヲ以テ翌一九二〇年一月再應請訓セリ

三、不正入國者呼寄家族ノ送還

一方ニ於テ一九一九年十一月以來多數ノ日本人タル不正入國者呼寄家族桑港「エンゼル」島ニ拘留中ナリシカ一九二〇年一月米國移民長官「カミネツチ」ハ愈之等日本人ヲ送還スルコトニ決定シ其理由トシテ米國在留期間ノ長短ニ拘ラス不正入國者ノ呼寄せタル家族ハ入國ヲ許可セラルヘキ

限ニアラスト述ヘタル趣ナリ仍テ幣原大使ハ國務省ニ對シ(イ) 在米五ケ年ヲ經過シタル不正入國者ノ家族ノ呼寄拒絕ハ先例ニ基ケルモノナリヤ將亦(ロ) 斯ル取扱ハ同様ノ場合ニ於ケル總テノ外國人ニ一律ニ適用セラルヘキモノナルヤヲ質疑シタルニ同省ハ四月二十八日附ヲ以テ左記要點ノ勞働省意見ヲ通牒シ來レリ

- (一) 不正入國者ノ在米期間カ五ケ年以上經過シタル爲米國政府ニ於テ送還ノ權利ナキニ至レル事實ハ同人ニ對シ適法居住者タルノ地位ヲ與フルモノニアラス勞働省ハ如何ナル國籍ノ外國人ニ對シテモ其不正入國者カ家族ヲ呼寄スルコトヲ認ムルヲ得ス

- (二) 在留外國人ノ家族入國ニ當リ該呼寄人カ不正入國者ナリヤ否ヤヲ確ムルハ移民當局從來ノ取扱ニシテ右ハ立法ノ精神ト一致セルコト移民法ノ用語ニヨルモ明ナリト信ス(附屬書第八十五號)

一月二十七日桑港移民局ハ中央ヨリノ訓令トシテ前記拘留中ノ日本人二十一名ニ上陸ヲ拒絕スルコトニ決定セルニヨリ關係日本人ハ家族呼寄人カ法定ノ期間以上在留セル點ヲ理由トシ訴願セリ然ルニ六月十六日裁判所ハ原告日本人側ニ有利ノ判決ヲ下シタルカ其判決ハ理由ヲ示サス單ニ原告ハ不法ニ自由ヲ拘束セラレタルモノニシテ直チニ解放セラルヘキモノナリト爲セリ

然ルニ之ト相前後シテ寫眞結婚ニヨリ渡米セル日本婦人四名ニ對シ桑港移民局特別審査委員ニ於テ審問ノ結果呼寄人タル夫カ何レモ正當入國者ニアラス且其居住ノ「リーガライズ」セラレ居ラサルコト判明シ入國拒絶ノ處分ヲ受ケタル事件起リタリ

四、不正入國者ノ家族ノ呼寄證明

米國勞働省ハ右事實ヲ通告スルト共ニ之ニ關聯シ日本領事ハ正當入國ノ事實ヲ立證シ得サル在留日本人ニ對シテハ呼寄證明ヲ與ヘサル様本國政府ノ訓令ヲ受ケ居ル趣ナルカ果シテ然ラハ右四名カ旅券ノ發給ヲ受ケタルハ呼寄人ノ僞證ニ基クモノナリト認ムルノ外ナキヲ以テ該旅券ノ取消方日本政府ト交渉セラレ度旨國務省ニ通達シ七月二十六日國務長官ハ幣原大使ニ右日本婦人ニ對スル旅券取消方ヲ要請セリ次テ其後「シアトル」ヨリ上陸シ抑留セラレタル寫眞結婚婦人ノ旅券ニ對シテモ同様ノ處置ヲ執ラムコトヲ同年八月國務省ヨリ要請セリ

本件ニ關シ帝國政府ニ於テ取調ヘタル結果翌一九二一年在米大使ニ對シ次ノ趣旨ヲ以テ米國政府ニ對シ回答スヘキ旨回訓セリ

(一) 本件五名ノ中四名(一名ニ付テハ不明)ハ孰レモ紳士協約前ニ入國シタルモノノ如シ而シテ同協約前ニ入國シタル者ニ對シテハ協約違反問題ヲ生セサルヘク之等ノ者ト協約成立後之ニ違反

シテ入國シタル者トノ間ニハ截然タル區別ヲ設クルノ要アリ既ニ入國後十數年ヲ經タル者ニ對シテ再渡航又ハ家族呼寄ヲ拒絶スルハ不必要ニ苛酷ナルヤノ觀アリ仍テ問題ノ不正入國者カ紳士協約成立後同協約及米國法律ニ違反シテ入國ヲ爲シタルモノナルニ於テハ其家族ニ對シ發給シタル旅券ハ取消スヘキニ付米國官憲ニ於テ入國ノ時期及不正事實ノ有無ヲ取調ヘ調書ヲ回送アリ度シ

(二) 尙紳士協約ニ基ク制限取締ハ一九〇八年一月及二月中隨時地方長官ニ對シ發セラレタルモノナルヲ以テ旅券有効期間六ヶ月ノ猶豫見積リ便宜上一九〇八年七月一日以後ノ無旅券入米者ハ同協約違反者ト見做スコトト致度シ

前顯ノ如ク不正入國者ニ關スル問題ニ付テハ日米兩國政府間ニ交渉未決ノ儘トナレルカ其後一九二三年八月政府ハ一九二二年桑港領事會議ノ決議ニ依リ本問題ニ關シテハ次ノ取扱ヲ爲スコトトシ關係各領事ニ訓令セリ

(一) 紳士協約實施後米國ニ潛入シタル者ノ中米國移民法上送還ヲ受ケサルニ至リ且社會上相當ノ地位ニ達シタル者ハ之ヲ再渡航者トセス從テ再渡航證明ヲ與ヘス全然新渡米者トシテ取扱フコトトシ證明ノ形式ニ依ラス本省ヘ内申スルコト

(二) 右不正入國者ニ對シテハ家族呼寄證明ヲ發給セサルコト

第四節 養子ノ入國

一、養子入國ノ拒絕

一九二〇年三月末及四月初ニ互リ「シアトル」移民官ハ中央政府ノ訓令ニ依リ同地ニ到着シタル養子九名ニ對シ突如上陸ヲ禁止シ關係日本人ハ米國裁判所ニ上告スルコトナリタルカ帝國政府ニ於テハ在米幣原大使ニ訓電シ本件事情ヲ米國當局ニ就キ調査セシムルト共ニ本問題解決ニ至ルマテ養子ノ渡航ヲ差止メタリ

二、幣原大使國務省「ロング」次官ノ折衝

仍テ在米幣原大使ハ四月三十日國務省「ロング」次官ニ面會シ法律關係上養子ハ實子ト同一ノ私權ヲ有スルモノニシテ適法ノ手續ヲ踏メル養親ノ呼寄ニ應シ米國ニ到着セルニ當リ突然上陸ヲ拒絕スルハ當事者ニ對シ甚タ苛酷ト云ハサルヘカラス養子入國ニ關スル根本問題ニ付テハ帝國政府ハ勞働省ノ發シタル訓令ノ内容及事情ノ判明スルヲ俟テ交渉スルコトトスヘキモ現ニ到着セル者ニ對シテハ假上陸ヲ許可セラルヘキ旨要求シタルニ其後「シアトル」ニ於テハ四月中旬以後到着

シタル養子ト共ニ合計十五名ニ對シ在同地廣田領事監督ノ下ニ六月八日假上陸ヲ許可セラレタリ

其後曩ニ假上陸ヲ許サレタル養子ノ中上告中ナリシ松本義助ハ勞働省ニ於テ詮議ノ結果一旦送還セラルルコトト決定シタルモ九月十四日該決定ヲ改メ松本ハ公共ノ負擔トナル虞アリ且正當旅券ヲ有セサル勞働者ナルト同時ニ十二指腸虫患者トシテ入國ヲ拒絕セラレタルカ本人ハ之ヲ不服トシ勞働省ニ上告シタル爲同省ニ於テ再審ノ結果入院治療ノ條件ニテ養父ニ引渡スコトニ決定セリ

三、其後ニ於ケル養子ノ渡航

斯テ帝國政府ニ於テハ當分ノ間養子ノ渡航ヲ差止メタルモ元來日本ノ家族制度ニ鑑ミ其差止ヲ續行スルコトハ稍々穩當ナラスト認メラレタルヲ以テ養子問題鎮靜トナルヲ待チ一九二二年六月一定ノ嚴密ナル標準ノ下ニ試験的ニ渡航ヲ許可シ米國移民官ノ取扱振ヲ監視スルコトトセリ而シテ政府ニ於テハ在米佐分利代理大使ノ意見ヲモ徵シタル上次ノ標準ニヨリ試験的ニ餘リ目立たサル範圍ニ於テ養子渡航差止解禁ヲ行フコトトセリ

(一) 夫婦同棲十年以上ニ達シ現ニ子無キ者及獨身者ト雖モ六十歳以上ニシテ現ニ子無キ者ハ相當